



# 古絵図でたどる 伊達政宗の城ツアー

—仙台城に登城する—

2016年11月12日(土) 13:00~16:00



SMMA見験楽学ツアー



【発行・連絡先】

仙台・宮城ミュージアムアライアンス事務局

〒980-0821 仙台市青葉区春日町2-1(せんだいメディアテーク内)

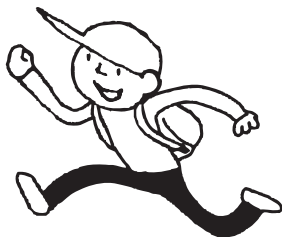
TEL 022-713-4483 / FAX 022-713-4482

E-mail [office@smt.city.sendai.jp](mailto:office@smt.city.sendai.jp)

**Smma**  
SENDAI MIYAGI MUSEUM ALLIANCE  
仙台・宮城ミュージアムアライアンス

## 持ち物リスト

- ◆汚れてもよい服装
- ◆歩きやすい靴
- ◆飲みもの
- ◆雨具
- ◆筆記用具



## 注意事項

- ◆大きな声で話すなど、地域の方に迷惑となる行為は謹んでください。
- ◆ツアールートには足場の不安定な場所もあります。足元や車には充分注意し、各自責任を持って行動してください。特に、歩きながらのスマートフォンは大変危険ですので控えてください。
- ◆当日の天候などにより、コース内容を変更したり、中止したりすることがあります。  
ツアー参加中のけがや病気、事故などについては、SMMA事務局で加入している保険(レクリエーション傷害保険)の適用内とさせていただきます。

## SMMA 今後のイベント

ミュージアムユニバース  
～すてき・ふしぎ・おもしろい～

平成 28 年 12 月 17 日 (土) 13:00～18:00  
12 月 18 日 (日) 10:00～16:00

せんだいメディアテーク 1 階オープンスクエア  
入場無料



SMMA に参加しているミュージアムが各々の「とっておき」を伝えるさまざまなプログラムをお届けします。「知る」ことの楽しさをぜひ体験してください。  
ミュージアムのスタッフが会場でお待ちしています。

## 歴ネット(仙台歴史ミュージアムネットワーク) 今後のイベント

### SMMAクロスイベント「仙台の伝統門松再現」

かつて仙台藩内で飾られていた門松は、一般に知られているものとはずいぶん違う形のものでした。調査の結果あきらかになった仙台の伝統的な門松を復元し、歴ネット参加館で展示します。一般に普及しているものとは違う門松を、実際に見てみませんか！

#### ○展示施設および展示期間等

- |             |                              |
|-------------|------------------------------|
| ・瑞鳳殿        | 平成28年12月19日(月)～平成29年1月14日(土) |
| ・仙台市縄文の森広場  | 平成29年1月5日(木)～1月25日(水)        |
| ・仙台市戦災復興記念館 | 平成29年1月4日(水)～2月12日(日)        |
| ・仙台文学館      | 平成28年12月22日(木)～平成29年2月12日(日) |
| ・仙台市歴史民俗資料館 | 平成29年1月5日(木)～1月31日(火)        |
| ・地底の森ミュージアム | 平成28年12月20日(火)～平成29年1月25日(水) |

※施設によっては有料ゾーンでの展示となっています。料金等については、各施設にご確認ください。





## 基礎知識 ～伊達政宗の居城、仙台城～

### ○ 政宗の居城の変遷

- ・米沢城（山形県米沢市 祖父の時以来の伊達氏の本拠地）
- ・黒川城（福島県会津若松市 天正 17～18 年 豊臣秀吉に没収）
- ・岩出山城（宮城県大崎市 天正 19 年～慶長 6 年 豊臣政権の指示で居城に）
- ・仙台城（仙台市青葉区 慶長 6 年～ 以後、仙台藩の本拠に）
- ・若林城（仙台市若林区 寛永 5 年～ 晩年の居館）

### ○ 仙台城の特徴

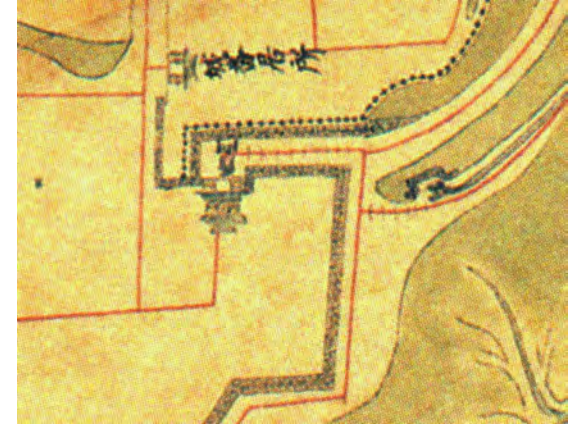
- ・青葉山に広大な本丸を作り、大広間や懸造等の特徴ある建造物を作る
- ・三階櫓 4 棟を建てるが、天守は設けず
- ・正門にあたる大手門は、全国最大級の城門
- ・政宗没後造営の二の丸は、御殿と藩庁の機能に特化され、防御施設を持たない

### ○ 政宗時代の仙台城（忠宗期以降との違いを中心に）

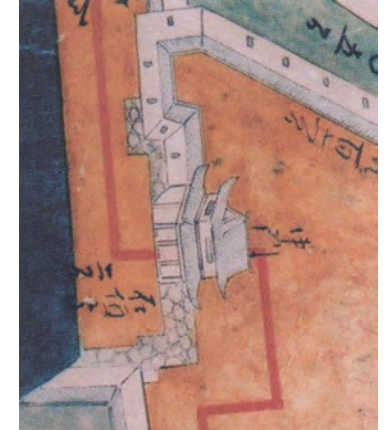
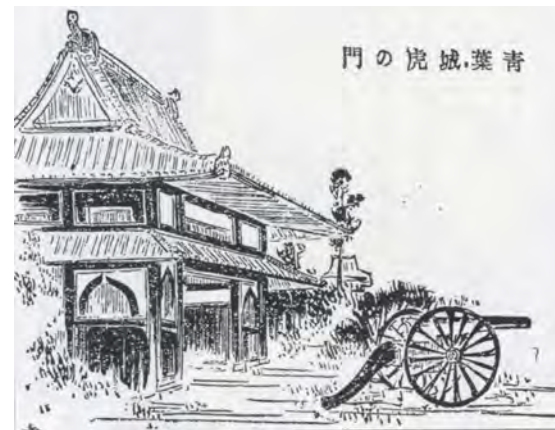
- ・築城期は巽門～清水門～沢門のルートが大手口だった可能性  
→ 慶長 15 年（1610）頃に仙台城の大改造を行い、大橋、大手門、大広間を一体的に整備したとする考えが有力
- ・三の丸の場所には、政宗の居館（下屋敷）が置かれた
- ・二の丸の場所には、政宗親族（五郎八姫、宗泰）や重臣の屋敷が置かれた



仙台城復元模型（仙台市博物館常設展示室内に設置）の本丸部分



西門（左：「奥州仙台城絵図」 右：「仙台城修復伺絵図」 いずれも仙台市博物館蔵）



中門（左：明治時代の新聞に掲載された図 右：仙台市博物館蔵「奥州仙台城絵図」）



昭和 10 年頃の大手門



## 見どころ⑤ 政宗の作った3つの門

### ○ 酉門

本丸西側の入り口が酉門（とりのもん）です。本丸西辺から東に30mほど通路が入り込み、突き当たって左に曲がった所に二階建ての門が建っていました。正保2年（1645）に作られた絵図では、近くの石垣の上に二階建ての櫓が描かれていますが、他の絵図には描かれていないので、本丸にあった4棟の三階櫓と同じように正保3年の地震で倒壊し、再建されなかったものと思われる。

### ○ 中門

大手門と本丸を結ぶ道の途中に設けられているのが、寅門（とらのもん）とも称された中門（なかのもん）です。本丸へ向かって道が左に直角に折れた所に設けられた二階建ての門で、付近の石垣周辺を発掘調査した際には多数の金箔瓦が出土しました。

大手門が建造される以前の巽門～清水門～沢門ルートが大手筋だった段階では、後の二の丸の場所にあった政宗の子供たちの屋敷に通じる搦手（からめ）筋に設けられた門であったと思われる。

### ○ 大手門

仙台城全体の正門にあたり、藩主の出入りや特定の儀式の時にしか開門されない特別な門でした。幅約20m、高さ12.5mという大きな二階建ての門で、全国的に見ても最大級の城門でした。門の南側には一部二階建ての脇櫓があり、北側には石垣と土塀が続いていました。

この門については、近代以降、豊臣秀吉が築いた肥前名護屋城の大手門を移築したとの説がありましたが、現在は大橋や大広間が整備された慶長15年（1610）頃に建造されたとの考えが有力になっています。

明治以降も保存されたこの門は、後に国宝に指定され、仙台を代表する歴史的建造物となっていました。昭和20年（1945）の空襲で脇櫓とともに焼失しました。その後、何度か復元計画が立てられましたが実現せず、昭和40年頃に脇櫓のみが復元され、現在に至っています。

## 見どころ① 仙台城の絵図

### ○ もっとも古い城絵図

仙台市博物館には正保2年（1645）に作られた巨大な藩領絵図（国絵図）の写しが展示されていますが、同時に作られた仙台城を含む仙台城下の絵図が斎藤報恩会から仙台市博物館に寄贈されました。

この絵図は、仙台城下や仙台城を詳細に描いた絵図としては、現存最古のもの。政宗が没して約10年後のもので、政宗没後に造営された二の丸が描かれていますが、その他は政宗時代の仙台城のおもかげをよく伝えていています。

本丸に設けられた4棟の三階櫓は、絵図が作られた翌年に発生した地震で倒壊し、その後は再建されませんでした。政宗が建てた三階櫓は、この絵図だけで見ることができるのです。

### ○ もっとも古い修復伺絵図

寛文8年（1668）7月21日、内陸型の地震が発生し、仙台城でも本丸の石垣が大規模に崩落するなどの大きな被害がありました。

江戸時代、城の石垣や堀などの修築を行う際は、絵図を添えて幕府に願いを出す規定となっていました。仙台城に関しては、この寛文8年の修復に関する絵図が、現存する修復伺絵図としては、もっとも古いものとなります。

正保の絵図や、その後の修復伺絵図と見比べると、絵図の書き方や城の形状にいろいろな違いがあることに気が付くでしょう。

### ○ 定型化する城絵図

天和年間（1680年代）以降、藩が作成する仙台城の平面図はほぼ同じものとなっていきます。この時期に基本図を作成し、以後はそれをコピーして適宜必要な情報を書き足したり、修正して絵図を作ったようです。

また、この天和以降の絵図は測量技術や製図技術が大きく進歩したためか、現在の地図と比べても大きな違いがないほど精度が上がっています。

### ○ 二の丸の絵図 ～江戸時代の役所～

戦乱が収まり、藩内統治の重要性が増してくると、組織整備が進み、城は藩主の居所に加え、儀式や実務を行う場所として多くのスペースが必要となります。二の丸の絵図に見える多くの部屋は、今の県庁や市役所の役割を果たしたのです。

## 見どころ② 築城期の大手筋？

### ○ 長沼 ～仙台城の外堀～

三の丸の東側にある長沼は、仙台城の外堀でした。その南端には今は埋められてしまいましたが、L字形の堀がありました。城内への進入路を狭くして、守りやすくするための防御施設でした。

### ○ 巽門

博物館の南に土台石が並んでいるところがあります。三の丸の南の入り口となる巽門の場所です。長沼方面から入ると、正面は行き止まりになっており、右に曲がって巽門をくぐるように配置が工夫されています。戦前までは二階建ての門が残っていましたが、仙台空襲で焼失してしまいました。

【もう少し】門を入り口の正面に作らず、道を曲げて門に入るようにするのは、縄張の常套手段です。巽門と同じような門の作りをしている例としては、弘前城の城門があります。



弘前城の追手門 →

### ○ 酒蔵屋敷

巽門の南側には酒蔵がありました。政宗が大和国から呼び寄せた榎森又右衛門が屋敷を与えられ、その子孫が幕末までここで藩用の酒を造っていたのです。これまで何度か発掘調査が行われ、建物や井戸の跡、酒造用に使われた米を運び込む際に用いられた荷札などの遺物が見つかっています。

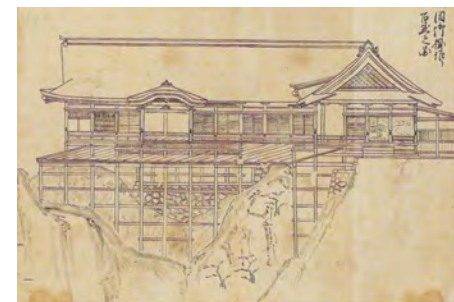
【もう少し】政宗は大の酒好きでした。城の中に酒蔵を設けて酒を造ったのは、仙台城くらいかもしれません。

### ○ 清水門

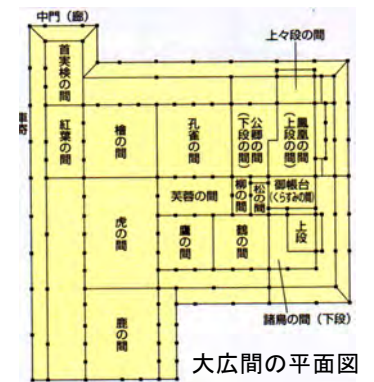
巽門を入ると、本丸への道は左に曲がりますが、この坂を少し登った所に二階建ての清水門がありました。門のすぐ近くに湧き水があることから、この名が付けられました。門に向かって左側には野面積みの石垣が張り出し、その上には単層の檜状の建物があったようです。また門の向かって左側に続く土塀はやや屈曲し、檜とあいまって枳形状の空間を作り出しています。



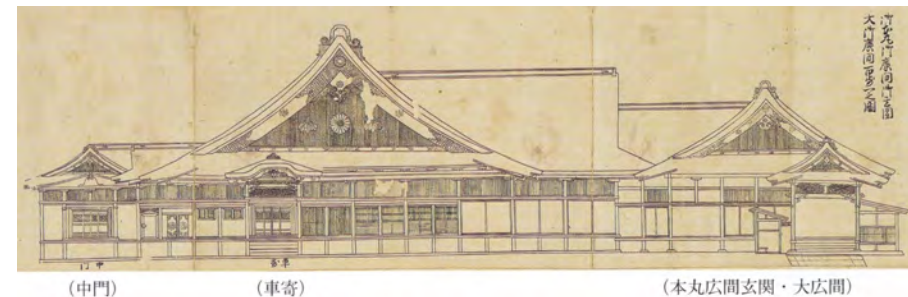
「奥州仙台城絵図」（仙台市博物館所蔵）の本丸付近



酒造の絵図（仙台市博物館所蔵）



大広間の絵図（仙台市博物館所蔵）



(中門)

(車寄)

(本丸広間玄関・大広間)



## 見どころ④ 政宗の作った本丸

### ○ 詰門から御成門へ ～本丸の正式ルート～

北壁石垣の西端に本丸の入口であった詰門(つめのもん)が建っていました。大きさや構造は大手門とほぼ同じだったとも伝えられています。詰門の前の左右には三階櫓があり、防御を固めていましたが、どちらも正保3年(1646)の地震で倒壊し、再建されませんでした。

詰門を入れて左に折れると、御成門があり、ここを入ると仙台北城本丸の最重要建築物であった大広間の入口へ道が通じていました。

### ○ 大広間 ～政宗が作った全国有数の御殿～

本丸北部に位置する大広間は、政宗が作った仙台北城の中心となる建物で、藩の政治や儀式の場として用いられました。記録や古絵図によれば、慶長15年(1610)の完成で、縁側部分を含めると430畳の広さで、たくさんの部屋を一つの建物に収める室町時代風の御殿建築でした。

数度にわたる発掘調査によって建物の礎石や雨落ち溝などが見つかり、東西33.5m、南北26.3mの規模で、ほぼ古絵図と同じ構造だったことが判明しました。この発掘調査の成果に基づいて、礎石などの位置を復元した遺構表示が整備され、また仙台北城見聞館でも大広間に関する展示が行われています。

### ○ 城下を望む懸造と櫓

本丸東側の崖にせりだすように作られた書院造の建物が懸造(かけづくり)です。慶長14年(1609)には政宗がここから城下を見物したことが確認されています。櫓が倒壊した後は、城下から望むことができる本丸の唯一の建物として、江戸時代の仙台北城下の人々にとっては、仙台北城を象徴する建物の一つとして認識されていたようです。

本丸の東辺には、懸造のほかに、三階櫓が2棟、政宗の時代に建てられました。本丸北東隅の良(うしとら)櫓と、東辺南部の巽(たつみ)櫓です。どちらの櫓も正保3年(1646)の地震で倒壊し、その後再建されませんでした。良櫓の跡は、寛文8年(1668)の地震による石垣の修復によって失われていますが、巽(たつみ)櫓は幾つかの礎石がかつての位置に残されています。



巽門(左:修復伺絵図、右:『目で見える仙台の歴史』に掲載された戦前の古写真)



「奥州仙台北城絵図」(仙台市博物館所蔵)の三の丸付近



## 見どころ③ 本丸へ

### ○ 屈曲した道と沢門

清水門を通過すると道は急な登り坂となり、さらにその道は2つの屈曲を経て沢門へと続きます。沢門も道を登って、方向を右に直角に曲がった位置に置かれていました。

道を屈曲させるのも城の防御手段の一つで、これによって攻めてくる敵を複数方向から攻撃することができるようになります。また屈曲部の近くには「沢曲輪」（さわのくるわ）と呼ばれる小さな平場がありますが、ここも屈曲した坂を攻めのぼってくる敵を攻撃するための陣地と考えられます。

【もう少し】城跡を歩く際は、中心に向かって歩くだけでなく、ときどき後ろを振りかえって、城を守る側のつもりになってどのように兵を配置するか考えてみましょう。城の構造が理解しやすくなります。

### ○ 時を知らせた太鼓部屋

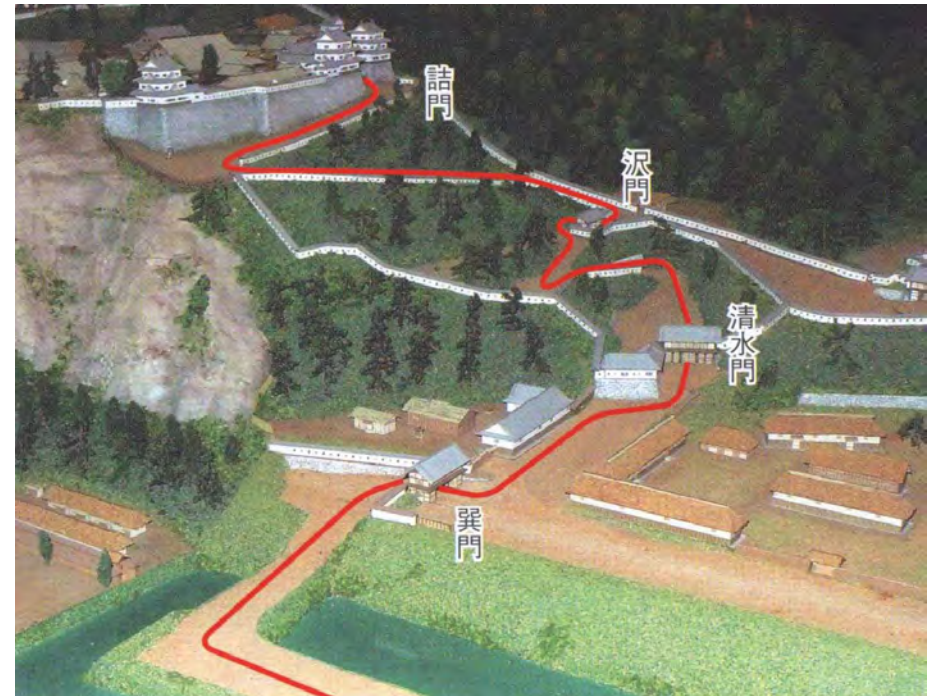
沢門から本丸へ向かう道は、やはり大きく何度か屈曲しながら本丸北壁石垣の北東かどにたどりつきます。その付近に「太鼓部屋」と呼ばれる小さな建物がありました。ここに大きな太鼓が置かれ、日に何度か太鼓が打たれ、城中や仙台下に時刻を知らせていたのです。

### ○ 本丸北壁の石垣

本丸北壁の石垣は、四角に整形された石材を整然と積み上げたもので、高さは最大で17mに及びます。平成9年から平成16年にかけて全面的に解体修復され、約1万個の石材を積み直しました。

解体に際して行われた発掘調査によって、3時期にわたる石垣の変遷が明らかになりました。現在の石垣は寛文8年（1668）の地震で崩壊した後に積み直されたものであることや、この石垣の背後には伊達政宗の時代に積まれた石垣が2時期分存在することが判明しました。石の積み方や背面構造、排水施設などが次第に改良され、石垣の構築技術が進化していったのです。

【もう少し】石垣の石材を注意して見てください。幾つかの石には記号が刻まれていたり、角に積まれた石材は稜線がハッキリ見えるような工夫がされていることが確認できます。



巽門から入り、清水門、沢門を通る登城ルート（仙台城模型に加筆）



「文久二年仙台下絵図」（仙台市博物館所蔵）に描かれた仙台城の太鼓部屋